



家族や地域のきずなを次の世代へ

柴崎秀也さん (69歳・堤根)

平成24年8月16日、下忍小学校の敷地に整備されている雑木園「グリーンパーク」で「三世代交流と感謝の集い」が初めて開催されました。今月は、このイベントを発案し、実行委員長を務めた柴崎秀也さんを紹介します。自然と触れ合いながら遊んだり、学んだりできる場所として造られた同園は、24年前に

同校の創立30周年の記念事業として、学校とPTAなどが児童にプレゼントしたもので、当時PTA会長を務めていた柴崎さんは、「卒業した子供たちが、この場所に自分たちの子どもを連れてきて、地域の方と交流できたら最高だな」という夢を描きながら、一本一本丁寧に苗木を植えたそうです。

月日はたち、孫を持つ世代となった柴崎さん。造園当時描いていた夢を「グリーンパークでの三世代交流イベント」として実現させようと思ひ、家族や仲間と相談しましたが、賛同を得ることができませんでした。そんな中、東日本大震災が発生し、日本中で家族や地域の強固なきずなが求められるように。「家



族や地域交流の大切さを見つめ直すためには、このイベントは絶対に開催するべきだと改めて決意し、造園当時の校長やPTAの仲間などに声を掛け、平成23年7月に実行委員会を結成。故郷を離れた子供たちが帰ってくるお盆に開催することを目標に掲げ、動き出したのです。

イベント開催までの準備期間は約1年。その間、同委員会のメンバーから「夏の時期に、なぜこのイベントを開催するのか。本当に人は集まるのか」といった声が上がったのも事実でした。柴崎さんはお盆にイベントを開催する意義を粘り強く説明したり、地区内の家を一軒一軒回り、イベントへの参加を呼び掛けたりするなど、不屈の精神でいくつものハードルを乗り越えていきました。

そして、長年の夢であった「三世代交流と感謝の集い」を開催。当日は、小さな子どもからお年寄りまで約200人が参加したそうです。柴崎さんは「グリーンパークに設置したターザンロープやハンモックで遊んでいる子供たちの笑顔や、旧友との再会を喜んでいる親たち、さらに孫の姿をうれしそうに眺めている祖父母の表情を見たときは、涙が出るほどうれしかった。実行委員の皆さんには、感謝の気持ちでいっぱいだよ」と振り返ります。

「次の世代が、もう一度このようなイベントを企画してくれば最高だね」とにっこりほほ笑む柴崎さんは、自分の意志を引き継ぐ若者が現れることを楽しみにしているようです。

私の作品

俳句

南河原 三沢 一水
余寒なほ風土記の丘にひしめけり

下中条 飯塚よね子
大空に稜線くつきり山笑ふ

向町 渡月 峯
明朝には踏まれ泣き起つ霜柱

城南 町田 達男
廃校に残る靴あと春寒し

城西 新井 禮子
わが姫に里よりとどくひなの段

城西 新井喜榮子
ざわざわと大木ゆさぶる春一番

荒木 国島 初江
絵馬に書き合格願ふ春となり

持田 二瓶 弘子
黄一輪夢もらえそな福寿草

城南 飯野 里子
車椅子押されて選ぶクロッカス

長野 野中せき子
石垣の割れ目に小さなさくら草

◎皆さんの作品を募集しています。
◎俳句は毎月5日までにはがき・封書で広報広聴課へ応募ください。

城南 鈴木 正夫
恋猫や声で目覚める今朝の夢

忍 今田 泰夫
おじいちゃん長生きしてねお年玉

富士見町 森 節子
病む友の枕辺近く手折りびな

持田 長田 義子
縮こみて紫白と春野菜

持田 丸山 麟一
残雪に足跡残す夕鴉

(木島 斗川 監修)

「花咲き、心なごむブーケ」

(アートフラワー) 田代 都 (谷郷)





田代 実央ちゃん(宮本)
父・直也さん 母・綾子さん
平成24年4月9日生まれ
「とまらないかわいさ!!」



小林 楓果ちゃん(長野)
父・誠弥さん 母・小百合さん
平成24年4月2日生まれ
「元氣いっぱい大きくなあれ!」



定方 望桜ちゃん(谷郷)
父・雄亮さん 母・友美さん
平成24年4月2日生まれ
「みんなから愛される子になってね♡」



中野 碧士ちゃん(和田)
父・健司さん 母・敏子さん
平成24年4月17日生まれ
「行田のプリンス☆」



木村 美遙ちゃん(若小玉)
父・浩也さん 母・美実さん
平成24年4月29日生まれ
「笑顔をやささない子になってね♡」

平成24年6月生まれのお子さんを募集します

○4月1日(月)~30日(火)に電話またはEメールで広報広聴課広報広聴担当(内線318)
※応募要領は市ホームページをご覧ください。
○応募者多数の場合は、5月2日(木)午前11時から市役所203会議室で公開抽選を行います。



さわやか サークル

銭太鼓 つづみ会 ~観客の笑顔に会いたくて~



皆さんは銭太鼓という楽器をご存じでしょうか。この楽器は、長さ30センチメートルほどの竹筒の両端に針金を十文字に通し、その針金に穴の開いた銭(5円硬貨など)

を取り付けたものです。これを、座ったまま曲に合わせて回したり、肩や床などに当たったりすることで銭同士がぶつかり合い、チャリンチャリンと音を鳴らします。今月は、このユニークな楽器で「たくさんの人に笑顔を届けたい」という思いの下活動している「銭太鼓つづみ会」の皆さんを紹介します。

平成17年に結成した同会ですが、活動を始めたきっかけは、近所の仲良しグループで行った旅行先での出来事でした。メンバーの1人が銭太鼓を初めて披露し、そのりりしい姿にほかのメンバーがすっかり魅了されてしまったそうです。現在、毎月第2・4火曜日の午後10人のメンバーが熱心に練習に励んでいます。

自由自在に銭太鼓を使って、楽しそうにパフォーマンスするメンバーの皆さんですが、初めは楽器の重さと手の動きの複雑さに驚いたそうです。「回すだけでも大変なのに、左右別々に動かすこともあって、最初はなかなか全員でそろえることができません。今では上半身の筋肉が付い

ただけでなく、頭もさえ渡っていますよ!」
とにっこり。

同会は、日々の練習の成果を市内外の病院や老人ホームで披露しています。曲のレパートリーは、「きよしのズンドコ節」など観客の年代に合わせたものばかり。高齢者の皆さんと一緒に歌を口ずさむ姿や、珍しい形状の銭太鼓に興味を示し、手に取って回している姿を見ると「自分の趣味で誰かを笑顔にできて幸せ。自然とやる気がわいてきます」と、充実感でいっぱいになるそうです。

近所の仲良しグループから、同じ趣味や志を共有する一生の仲間になった皆さん。1人でも多くの笑顔に出会うために、これからも手作りの法被と鉢巻きを身に付けて、りりしい姿で銭太鼓を披露していくことでしょう。



▶問い合わせ 山口☎554-2632